

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	校内研究と連携し、授業において、めあての提示、振り返りの時間の設定を全学年・学級で統一することで系統的な指導を行い、各学年の発達段階に応じた主体的に学ぶ力を高める。 ICT 機器を効果的に活用して個別最適な学びを推進し、基礎・基本の定着を図る。	中間評価	全学年、めあての提示、振り返りの時間を意識して、授業に取り組む事が出来てきている。それぞれの学年で意識してはいるが、低学年から高学年へとつながる系統的な指導というところまでは到達していない。前期に成果として挙げたことをまとめ、それを発達段階に合わせたものへとさらに改善し、系統的な指導を実施していく。	最終評価	
環境作り		愛日スタンダード等を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導を徹底する。hyper-QU の活用等による児童理解をすすめる。自己決定の場の確保、自己肯定感をもたせる場作りなどの人間関係づくりの視点で学習環境を整えていく。 また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行う。		全教職員で全児童を育成という学校経営方針の下、愛日スタンダードを基にして、同じ方向を向いて全児童の指導にあたった。指導の方向を合わせるために何度も話し合いを行い、方向性を合わせようと取り組んできた。 hyper-QU の結果を学級担任だけでなく、全教職員が担任と一緒に読み取ったことで、児童理解が深まり、児童への対応の仕方を共有できた。 全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示を年度当初に全教職員で共通理解し、環境作りを行った。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	・平仮名や片仮名、漢字の書き順や字形の習熟や、拗音や促音、「はをへ」などの使い分けが、なかなか定着しない児童がいる。 ・集中して最後までしっかり話を聞くことができない児童が多い。	・書き順や字形を正しく書くように、練習の際には、机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしている必要がある。 ・話す時の声の大きさや姿勢、話を聞く時の態度や質問のタイミングに課題があるため、指導していく必要がある。	・毎日の授業中での漢字ドリルの添削や宿題の漢字練習帳の添削などの機会を増やし、正しい文字の書き方を繰り返し指導していく。 ・デジタルドリルを授業での演習問題として活用する。 ・帰りの会で日直のスピーチを実施し、質問や感想を話す機会を設けることで、話し方や話の聞き方を身に付けさせる。		
	算数	・たし算・ひき算の仕組みは、分かっているが答えを出すまでに時間がかかる児童もいる。また、文章問題の読み取りが苦手な児童が多くいる。	・繰り上がり、繰り下がりのある計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の能力差が出てきているので、指導が必要である。	・習熟度に合わせた問題をタブレット端末を活用し、練習問題の難易度や、問題量など、児童の定着度に応じて個別対応ができるようにする。		
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学平仮名や片仮名に加えて、漢字の習得も反復練習を取り入れたことで定着してきている。しかし、筆順に気を付けたり、字形を整えて書いたりすること、文章で漢字を使うことについては、指導が必要である。 学話を聞く際、集中して聞けなかったり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。大切なことを落とさないで聞くことができる児童が少ない。 学自分の意見や感想、友達のいいところなどを発表する時など、話し方は身に付いてきている。その場に応じた声の大きさを話すことについては、十分に身に付いていない。	・家庭での反復練習の際も、正しい書き順で字形を整えることを意識して書くように指導する必要がある。 ・大切なことを落とさないで聞いたり、話したりするためには、どんなことが必要なのか考え、定着させる必要がある。 ・ペアで、グループで、全員の前で話す時に、ちょうどよい声の大きさを意識して、話すよう指導する必要がある。	・漢字練習を毎日行ったり、漢字テストで定着を確認したりする。タブレット端末での漢字練習も積極的に取り入れ、繰り返し練習する時間を設ける。 ・話を聞く時に、手遊びをしないで話し手の顔を見て話を聞くこと、途中で口を開かないで終わってから質問することなどを徹底して指導する。全校朝会での校長講話、朝のスピーチなど大切なことを落とさないように聞いているか定期的に確認する。授業中に友達の意見をもう一度発表させ、友達の意見もしっかりと聞く意識を高める。 ・ちょうどよい声の大きさを実感できる機会を計画的に取り入れ、その場に応じた声の大きさを話ができている児童をお手本として取り上げ、全員での共通理解を深める。	・新出漢字の練習では、その漢字を使った言葉を意欲的に発表する児童が増えた。正しい書き順や字形を整えて書くことについては課題があるため、今後も指導していく。 ・話を聞く際のきまりを指導してきたことで、話者に視線を向けて話を聞く児童が増えてきた。しかし、大事なことを落とさずに話を聞くこと、最後まで話を聞いてから質問することに関しては今後も指導が必要である。 ・ペアで話す時には、その場に応じた声の大きさを話すことができるようになってきた。しかし、グループで声が大きくなったり、逆に全体で声が小さくなったりすることが課題である。授業中の発言、音読発表会などで、適切な声の大きさを話している児童をお手本にするよう呼びかける。	

		学 計算については、正確に答えを求められるようになってきている。しかし、繰り上がり、繰り下がりのある計算では誤答が多くなる。答えを求めるまでの速さについては個人差がとて大きい。 学 文章題では、問題の意味を理解した上で、図、言葉、式などを用いて答えを求める活動に計画的に取り組む必要がある。	・正しく答えを求められるように繰り返し練習問題に取り組む必要がある。同時に、個々の計算力に合わせて、課題の質量を変えて取り組ませる指導も必要である。 ・学習課題を把握し、既習事項を活かして解決する場面において、図、表、式などを用いて説明できるように指導する必要がある。	・計算問題に繰り返し取り組ませるだけでなく、問題の難易度や量など、児童の定着度に合わせて取り組ませるよう教材を工夫する。個に応じて、タブレット端末も積極的に活用する。 ・図、表、言葉、式など様々な方法で自分の考えをまとめたり、説明したりするような学習活動を計画的に取り入れる。カメラ、オクリンクなどタブレット端末の利点を有効に活用する。	・繰り上がり、繰り下がりのたし算、ひき算は8割程度の児童が正しく計算できるようになってきた。課題がある児童には、個別指導を行ったり、タブレット端末を活用したり、家庭学習で復習したりしていく。 ・自分の考えをまとめたり、友達に説明したり、授業の振り返りを書いたりする活動を必ず取り入れて学習を進めた。書画カメラやタブレット端末（カメラ機能、オクリンク）などICT機器も積極的に活用し、分かりやすく自分の考えをまとめているノートなどをお手本として紹介すると、良いところを取り入れようとする児童も増えた。自分の考えを分かりやすくまとめて発表することについてまだまだ課題があるので、今後も継続して指導する。	
3	国語	調 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、領域「書くこと」の正答率は、他の領域と比べると低い結果となっていた。 学 新出漢字の練習はタブレット端末とノートでの練習のバランスを考えて指導を続けてきたことで、正しい字形を意識して書くことができた。しかし、筆順を意識して書くことは今後の課題である。 学 話を聞く際に、大事なことは何だったか児童に確認したり、要点をメモにまとめさせたりしてきたことで、大事なことを落とさずに話を聞けるようになってきたが、まだ十分とは言えない。	・自分の伝えたいことを順序立てて書けるよう指導する必要がある。 ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、文章を書く力を伸ばす必要がある。 ・自分の思いや考えが明確になるような文章を書く力を伸ばす必要がある。 ・指定された文字数で自分の思いや考えを明確にして書けるようにする必要がある。 ・新出漢字の学習では正しい字形・筆順を意識して書けるようにする。 ・話を聞くときは話し手の話に関心をもって聞き、質問する力を伸ばす必要がある。	・ワークシート・ノートにまとめた内容、振り返り（学習感想）など書く活動を習慣化していくようにする。 ・限られた文字数や決められたテーマ文章を書く取り組みを定期的に行う。 ・「まず～」「つぎに～」「そして～」などの順番を表す言葉を使って文章を書かせることで、順序立てた文章を書く力を付けていく。 ・漢字の学習は漢字のドリルやタブレット端末を活用していく。 ・話を聞くときは、話す人の方を見て聞いたり、大事だと思ったことをメモしたりするようにする。また、質問するときは知りたいことを整理してからするようにする。	・振り返りの文末の文型を教室に掲示し、どの教科でも自分の学習の振り返りができるよう指導する。 ・「まず～」「つぎに～」「そして～」などの順番を表す言葉を使って文章を書かせることを意識して今後も指導していく。 ・漢字練習を毎日行ったり、ミニテストで定着を確認したりして漢字の定着を図った。また、タブレット端末での漢字練習も取り入れ、繰り返し練習する時間を設ける。 ・話し手を見て、話を聞けるようになってきた。メモを取ることに集中し過ぎて、最後まで聞き取れないことがあったので大事なことだけ簡潔にメモを取ることを指導していく。	
	算数	調 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、2桁、3桁の計算におけるミスが見られた。 学 学習課題を解決する際には、図や表などを使用して説明する場面に授業に多く取り入れたり、タブレット端末を使用して全体で検討したりすることによって表現できる児童が増えた。 学 計算処理については、正しく計算することよりも、速く計算することを目標としている児童が多く、間違えずに計算できる児童は多くない。 学 文章問題や応用問題になると理解に時間がかかり、個別指導を必要とする児童も多い。	・「速く計算する」というよりも「正しく計算する」を意識して、計算問題に取り組む必要がある。 ・式を立てる際に、自分が行っている計算や具体物操作が文章題の中でどのような意味をもつか考えながら、問題に取り組めるようにする。	・計算問題を解くときには、計算の過程が明確になるように、ノートに途中式を書くようにする。 ・計算の確かめの仕方を指導し、解答を見直す習慣を身につかせる。 ・授業で文章問題を解く時には、問題文にラインを引き、それを基にして言葉の式を立て、計算式を立てることを指導し、積み重ねる。 ・個別に指導が必要な児童には絵や図などを用いて段階的に指導を行う。 ・家庭との連携を密にし、目盛りや単位問題において習熟を図る。	・自分の考えを友達に話したり、友達の考えを説明させたりする活動を学習に取り入れた。 ・「あまりのあるわり算」でわり切れない場合の除法計算の答えの確かめ方を指導した。単位のつけ忘れが多いので指導する必要がある。 ・個別に指導が必要な児童は何について、つまずきを感じているのかを分析し、そのつまずきを補う指導を行っていく。 ・計算ドリルやタブレット端末を使い、家庭学習で反復練習を行うことで引き続き、習熟を図る。	
4	国語	調 前年度新宿区学力定着度調査では、領域「書くこと」の正答率が、他の領域と比べると低い結果となっていた。「話すこと聞くこと」で、自分の考えが相手に伝わるように理由をあげながら話すことや、「読むこと」で、叙述を基に文章の内容を捉えることも十分とはいえない結果となっていた。 学 話を聞く際に、自分と同じ考えに対しては、共感しながら聴くことができる。一方で、話し手を見て聞けなかったり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。最後まで集中して話を聞くことができる児童が少ない。 学 文章を書く際に、文字の誤記や書き飛ばし、意図が伝わらない文章が見られており、文章表記の定着が十分とは言えない。 学 文章を読む際に、自分の想像を基に読解をしており、叙述を根拠にできていない児童が多い。	・話を聞く際に、相手を見て聞くこと、手遊びをせずに聞くことを指導し、最後まで集中して話を聞くには、どうすればよいのかを考えさせ、定着させる必要がある。 ・自分が書いた文章を読み直す習慣がつくよう指導する必要がある。 ・文章を読む際に、叙述に即して読むことを指導する。これを繰り返し指導することで定着を図る必要がある。	・話を聞く時に、話し手を見て、手遊びをしないで聞くこと、最後まで聞いてから自分の考えを口にすること等を徹底して指導する。友達の意見を改めてまとめさせることで、集中して聞く意識を高める。全校朝会の校長講話の要点を毎回確認することで、最後まで集中して話を聞く練習とする。 ・学習内容を振り返る際に、自分の書いた文章を必ず読み返すよう指導し、自分の意図が伝わっているか、誤記や書き飛ばしがないか確認する習慣をつける。 ・物語文や説明文の学習の際に、自分の考えの根拠とする部分に線を引かせたり、書き抜かせたりすることを繰り返し、叙述に即して読む経験を積む。また、叙述のどこを根拠にして自分の考えをもったのかについて話し合う機会を増やす。	・話を聞く際に、話し手を見て手遊びをしないこと、途中で口を挟まないことは定着したとは言えない。日直のスピーチや、学習中の発言などでも話し手を見て聞く意識を常にもたせる。また、話し手に、聞き手が聞いていない時には話さないよう指導を徹底する。 ・自分の書いた文章を必ず読み返すことは、まだ十分とは言えない。そこで振り返りの文末の文型を教室に掲示しお手本としたり、スピーチ等の原稿などを書く際にも必ず読み直したりすることの指導をすることで、定着を図っていく。 ・自分の考えの根拠とする部分に線を引いたり書き抜いたりして、話し合う経験は積み上げてきている。考えが同じなのに根拠が違う、根拠が同じなのに考えが違う理由を話し合ったり考えたりして考えを深められるようにしていく。	

		算数 調 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。その中で、文章問題を読み解くことや式や考え方を説明することは正答率が低く、課題が見られている。 学 計算については、正確性よりも速さを重視している児童が多く、筆算の際に繰り上がり、繰り下がりのある計算でミスをする児童が多い。かけ算九九の定着が十分ではない児童もいる。そのため、基礎基本の問題でも単純なミスをする児童が多い。 学 文章問題や、応用問題になると理解に時間がかかったり、個別指導を必要としたりする児童も多い。自分の考えを文章や式で表すことにも課題がある。	・「速く解く」ことではなく、「正確に解く」ことを意識して計算問題に取り組ませる必要がある。 ・立式の仕方を説明したり、文章問題の場面を具体化したり、自分がどのように考えて解いているのが他者にも理解できるように表現することを繰り返し指導し、定着を図る必要がある。	・間違えた問題を解き直す際に、どこが間違っていたのかを明確にして訂正することを習慣づける。計算ミスがなくなるよう見直しをすること、0 や 6 などの数字を丁寧に書くことを徹底する。計算の途中式を書くことを習慣づけ、思考の過程が見える化をしてミスがなくなるようにする。 ・文章問題や応用問題などは、問題文にラインを引いて言葉の式を立ててから計算式を立てるよう指導する。また、自分の考え方を他者に説明する場面を意図的に作り、説明する学習活動を計画的に取り入れる。	・途中式や筆算を書かせることで間違いを明確にした修正ができるようになってきた。数字を丁寧に書くことは、今後ともノート指導の中で常に声をかける。1 単元で数度、正確に、丁寧に書いている児童を紹介して称賛する。 ・式から別の児童の考え方を読み解いたり、別の児童の考え方を紹介したりする活動は適宜取り入れて、考えを説明できるようになってきた。今後も継続する。立式に難がある児童には、問題文のライン引きやキーワードの取り出しを継続指導する。	
5	国語	調 前年度の新宿区学力定着度調査では、領域「書くこと」の正答率が、他の領域と比べると低い結果となった。「話すこと聞くこと」の「話し手が伝えたいことの中心を捉えて聞く」や、「言語事項」の「主語と述語」、「気持ちを表す語句」の理解についての設問で誤答が多かった。「漢字の読み書き」の項目では、正答率を大きく上回った。 学 読書を好む児童は多いが、登場人物の気持ちの読み取りとなると、叙述を基に正確に読み取れている児童は多くはない。 学 1 分間スピーチの様子を見ると、話し手の意図とは関係なく、聞き手の興味本位の質問が多く見られ、話し手の意図をくみ取ったり、話の中心を捉えて聞いたりすることができない児童が多い。	・限られた文字数や決められたテーマに基づき、考えを順序立てて書くことができるように指導する必要がある。 ・文章を正確に読み取る道標になるように、主語、述語などの言葉の学習も定期的に行い、習熟を図る必要がある。 ・文章を読む際に、叙述を基に登場人物の気持ちを具体的に想像できるようにすることや段落の内容を捉えることができるように指導する必要がある。 ・話し手の意図をくみ取ったり、自分の考えと比べながら聞いたりするなど、相手意識をもたせた話の聞き方ができるように指導する必要がある。	・週 1 回、朝学習の時間を活用してミニ作文を書く時間を設定し、限られた文字数や決められたテーマに即して記述できるよう継続して行う。 ・朝学習の時間を活用して、簡単なワークプリントに継続して取り組む。その際、主語、述語、修飾語等を確認することで、文の構造に着目させ、文章読解の際にも生かせるようにする。 ・物語文や説明文の学習の際に、どの叙述を基に考えたのか、教科書に線を引いたり、ノートに書き出したりさせることで叙述を意識した読み取りができるようにする。また、段落ごとにタイトルを付けさせるなどして、話の内容の中心を常に意識して読めるようにする。 ・朝のスピーチでは、スピーチ後に話し手の一番伝えたかったことが聞き取れたか、話し手と聞き手で照合する時間を設ける。質問の際には、話の意図を汲んで質問をしている児童を価値付けし、話の中心を捉えて話を聞く意識が身に付くようにする。	・書くことが得意な児童と苦手な児童で大きな差がある。週に 1 回のミニ作文等で、上手に書けている児童の作品を紹介し、ポイントを押さえたり、文型を用いて書くように指導したりすることで書く力伸ばしていく。また、自主学习ノートの振り返りや毎時間の振り返りを継続して行っていくことでも、自分の考えを書く機会が多くもてるようにしていく。 ・叙述を基に登場人物の気持ちを想像したり、説明文の構成に着目することで的確に読み取ったりすることができるようになってきている。国語の学習に用いる言葉の理解の定着度が低いことが分かったので、教師が意図的に使い、児童が意識して課題に取り組むことで、読み取る力を向上させていく。 ・質問の内容から、話の中心を意識して聞くことはできるようになってきている。しかし、話すことに苦手意識をもっている児童が多く、一番伝えたいことを意識して話せている児童は多くはない。話型やスピーチ原稿を用いることで、自信をもって話ができるようにしていくとともに、今後も話の中心を意識して話せるように指導していく。	
	算数	調 前年度の新宿区学力定着度調査では、ほぼすべての領域で目標値を上回っていた。 学 基本的な知識をもっている児童は多いが、その知識を活用する方法を身に付けていないためか、解き方の見通しがもてなかったり、答えまでのプロセスを説明できなかったりする児童が目立つ。 学 四則計算は十分身に付いている。しかし、筆算はできるが、筆算の数の意味までは理解できていなかったり、計算のきまりを使って工夫して解くことができなかったりする点に課題が見られる。	・これまでどのような学習をしてきたか、既習事項を確認し、既習事項を基に新たな問題を解決していくことを意識させる。そして、自らの意思で知識を活用することができるようにしていく必要がある。 ・数にどのような意味があるのか、公式はどのように成り立っているかなど、答えではなく、考え方に着目して思考力・判断力・表現力が身に付くよう指導する必要がある。	・毎時間、課題に対してどのような方法で解くか見通しをもたせる中で、既習事項を確認し、自分のもっているどの知識が活用できるか確認する。そのようにすることで、課題解決までのプロセスが身に付くようにする。 ・式を読む活動や友達のを考えを説明する活動を多く取り入れ、考えを深めたり広げたりできるようにする。	・見通しをもって学習問題に取り組むようになったことで、一単位時間の中で、何を学んだか意識することができるようになってきている。しかし、知識を活用する点では十分ではない。今後も既習事項を丁寧に確認することで、身に付けている知識を自覚させ、自ら活用できるようにしていく。 ・ペア学習を多く取り入れたことで、自分の考えを表出する機会が増え、考えを深めることができるようになってきている。今後も継続する。	
6	国語	調 前年度の新宿区学力定着度調査では、「言語文化に関する事項」「書くこと」についての領域が低かった。 学 ノートや宿題の様子から、漢字を書いたり読んだりすることは、おおむねできているが、機械的な暗記となり意味や使い方の理解が不足している。そのため、作文などの際、既習の漢字の活用ができていない。 学 作文などの文章を書くことは、得意不得意の差が大きい。自分の意見や気持ちまでは書けているが、理由が書けないなど、短文になってしまう児童が多い。	・書くことへの抵抗感がある児童の抵抗感をなくしていく必要がある。 ・テーマに沿った自分の考えを明確に、文章の構成を考える力がまだ十分でないため、指導する必要がある。 ・既習の漢字を活用する力が十分でないため、指導する必要がある。	・各教科の学習で自分の考えを書く時間を設ける。自分の考えを簡潔に書くことから抵抗感を減らしていけるようにする。 ・朝読書の時間や隙間時間を活用して、読書から語彙を増やし、文章構成に触れさせる。 ・新出漢字の学習の際は、読み書きにとどまらず、部首や意味、使い方も確認していく。	・新出漢字を学習した時点では書くことができるが、定着せずに作文等では学習した漢字を使えない児童が多くいる。作文指導の際に既習漢字を使用することを意識させ、新出漢字の定着を図る。 ・文章の読み取りに課題がある児童が多くいる。そのため、物語文では、登場人物の心情や言動について丁寧に取り扱い、読み取る力を向上させる。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること意識して「書くこと」の習慣化を図る。	

	算数	調前年度の新宿区学力定着度調査では、ほぼすべての領域で目標値を上回っていた。 学基本的な知識は身に付いている。昨年度同様に、正答すれば十分と考えている児童がまだいる。	問題文を正確に読み取り、解答していく力は十分とは言えないため、指導する必要がある。 知識としての公式は身に付いているが、一つの考え方に固執してしまう児童がいるため、指導する必要がある。	時間内に丁寧に問題を解くことや、自分の解答を見直すことの重要性について指導していく。 自分の考えを説明する時間を設け、多様な考えで問題の解決をするよさを感じられるよう、指導していく。	練習問題などを通して既習事項の復習をし、学習内容の定着を図る必要がある。また、引き続き自分の考えをノートに書いたり、発表したりする活動をさらに増やしたりしていくことで、理解を深められるようにする。 文章問題の読み取りに課題がある児童が多くみられるため、問題文の文章中から「分かること」「聞かれていること」を丁寧に確認することを繰り返し、自分で文章を整理し、注目すべき数値を見付け、考える力の向上を図る。	
	音楽	学器楽や鑑賞に興味をもち、進んで演奏に取り組んだり、集中して鑑賞したりすることができている。表現活動には2年前から制限がかかっているため、歌唱や器楽（リコーダー）では主体的に思いや意図をもって表現する技能が十分ではない部分がある。	難易度の高い課題に取り組むとき、一部の児童に苦手意識から諦めてしまう場面が見られるため、指導する必要がある。 音楽表現の工夫に至るまでの技能が追いつかず、難しさを感じている児童がいるため、指導する必要がある。	発達段階に応じた指導はもとより、身につけていない技能面は、その都度振り返りや確認をしていく。 友達の考えやよさを知る場面を増やすため、ペア学習やタブレット端末などを利用していく。	音楽会に向けて、感染状況を鑑みながらリコーダーに飛沫防止のカバーを付けたり、電子キーボードに変えて合奏をするなどの工夫をした。 音楽を体の動きで表現する活動をグループで行い、思考力・判断力・表現力が向上した。 歌唱の学習については、2年ほど声を出さない状態が続いていたので、歌うことに苦手意識をもつ児童もいる。音源を準備し学級でも歌う機会をもってもらい、歌う機会を増やしハードルを下げていきたい。	
	図工	学道具の扱い方を生かして表現活動に取り組む意識が高まってきている。鑑賞では、自信をもって発表する児童とそうでない児童がいる。	友達の作品から良さを積極的に見つけられるが、自分で考えて表現することに自信のない児童がいるため、指導する必要がある。 楽しく取り組んで作品を完成させることができるが、鑑賞において堂々と発表できない児童がいるため、指導する必要がある。	学年の段階に応じて、一つの道具でも様々な扱い方があることを丁寧に伝えて表現の楽しさを感じられるようにする。 鑑賞の場面では、意識して取り組んでいたことを振り返った上で作品の良さを伝えられるようにしていく。	道具の様々な表現方法を試すようになってきたが、その先の自分の表現に繋がられない児童がいるため、表現の楽しさに加えて自信を持たせる指導は引き続き必要である。 自他の作品についてカードに記入させたことで、普段発表できない児童も自分の考えを振り返ることができた。鑑賞方法については今後も検討していく。	
	特支	学算数の計算に関して、過去に学習した内容の定着度に差がある。また、文章題など、問われていることをイメージして立式することに課題がある児童が多い。 学コミュニケーションに課題がある。話し合い活動や、聞く活動で相手を意識した行動が難しい児童が多い。自信がなく、消極的になってしまう児童もいる。	覚えることが苦手で、学習してから時間がたつと忘れてしまう児童がいるため、指導を工夫する必要がある。 問われていることを図や表に整理したり、具体物で操作したりすることを面倒がる児童がいる。 自分の伝え方に対して、相手がどのように思うかを分かるが、自分の行動の改善ができない児童が多い。分かっているけれどできないことにどう折り合いをつけていくかが課題であるため、指導する必要がある。	授業内で過去に学習したことを振り返る機会をこまめに作り、学習方法を確認する。また、宿題でも復習問題を用意し、学習する内容を振り返る機会を多く設ける。 図や表を作成する手順を減らし、児童の負担感を減らす。整理することによって、問題を理解しやすくなることを実感させ、児童の意欲向上を目指す。 児童が自分の行動を客観的にとらえることができるよう、S S Tや日常的に声をかけていく。理解を深めるために、相手がどのように思ったかを考えさせる声掛けも行っていく。	授業の中で過去に学習したことを振り返る時間を設けたり、宿題に出したりすることで、忘れないようにしているが、まだ定着はしてないので引き続き、行っていく。 タブレット端末を使用して、具体物の操作を簡単にすることで計算に取り組むことができた。引き続き、負担感を減らす方法を探りながら学習計画を進めていく。 S S Tや日常的な声掛けで教師と一緒に行動を客観的に取り組めるようになってきた。しかし、気持ち折り合いがつかない場面があることも課題であるため時間を置く等のその場に応じた、手立てを取っていく。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。